

第1講 古代ギリシア史の背景にあるもの

先行するイメージ

エーゲ海、紺碧の空と海、白い浜辺、古代の遺跡
夏のリゾート地

近代のネガとポジ

ヨーロッパ人の知的伝統の中のギリシア

伝統的歴史観（中世以来の）

旧約の時代（天地創造～バビロン捕囚：古代オリエント史）

ギリシア古典の時代（ホメロス～アレクサンドロス大王：古代ギリシア史）

ラテン古典の時代（カエサル～コンスタンティヌス帝：古代ローマ史）
共和主義の歴史（ブルートゥス）

→古代ギリシア史は中世以来の知的伝統の中にオリエント史とローマ史に挟まれた一つの時代として位置づけられる

西欧のロマン主義とリベラリズム：新しい要素として

ヨーロッパ的価値観の根源を古代ギリシアに求める

ニンフとパーン、そして神々が人間とともに暮らしていた時代（カドモスの娘アウトノエの子アクタイオンとアルテミス→鹿に変えられり犬に殺される）

アルカディアが理想郷として思い描かれる

ローマの共和主義からギリシアの民主政（19世紀の価値観の転換）

ヴィクトリア朝時代イギリス（グローアの『ギリシア史』）

教養主義エリートの台頭

高等教育におけるギリシア語教育

教養としてのプルートルコス『英雄伝』（ルナールの『人参』）

ホメロスの素読

プラトンやアリストテレスの哲学

ギリシアの政治哲学

教養人にとってなじみのある世界・時代

人類史における大きな時代として高い評価を受ける

特にペリクレス時代の高い評価（「ギリシアの学校」）

美術史的関心の高さ

人間主義

人間の理想的な美しさ・均整の追求

パルテノン神殿・フィディアス

文学を通じての知識

ホメロス、エウリピデス、サッフォー

人類史の一つの頂点

ペルシア戦争

シモニデスの銘文：「遠国人よ、ラケダイモンに行きて告げよ、御身らが命に服して我らここに死にきと。」

戦死者に対する慰霊の定型句

近代がギリシアに込めたもの

アジアに対するヨーロッパの優越

←ヨーロッパによるアジア・アフリカの帝国主義支配の投影

ペルシア戦争

←アジアのデスポティズムに対するヨーロッパのデモクラティアの勝利

民主主義の優越性

←近代立憲主義

合理主義的思考

芸術文化

日本の西洋史＝西洋の歴史のコピー

同時に明治以降の近代日本のイデオロギーでもある

古代ギリシア史に託したヨーロッパ近代のイデオロギー

民主主義・合理主義・理性主義・男性原理

同時に現代日本のイデオロギー

天皇制に対する民主主義・共同主義に対する個人主義・封建的アジア

に対する西欧世界・帝国主義に対する民族主義

国民国家ギリシアの枠の中で

アジアに対する否定的な姿勢

アジア的共同体：自立した個人の欠如・共同体への埋没・地主制と天皇制

ヨーロッパ的価値観の体現